

知っておこう!

健康診断の

監修:石川 隆氏
丸の内クリニック 院長



第13回

ウン?・ホント! 眼の検査

健康診断を受けた社員の健(タケシ)さんが、眼の精密検査を勧められました。妻の康子(ヤスコ)さんとの会話から今回は眼の検査について考えていきます。

1 眼圧検査や眼底検査ってどんなもの?

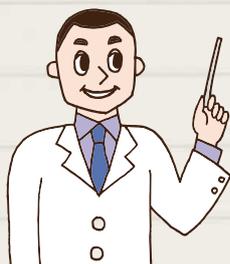
タケシさん、
眼底の精密検査が
必要と書かれているけど、
これまで特に眼の異常や
見えにくさを訴えたことも
ないわよね

ヤスコ
康子さん
主婦(35歳)



うん。近視で中学生のとき
からコンタクトレンズを
使っているけど、
眼底の変化を指摘された
のは初めてだよ

タケシ
健さん
会社員(40歳)



健康診断で行われる眼科的な検査には、視力・眼圧・眼底検査があります。

このうち視力検査は労働安全衛生法に基づく一般健診に含まれ、健康診断に必ず入っている項目です。検査の際は片眼ずつ5メートル先の指標を読み、判読

できるかを調べます。メガネやコンタクトレンズを使用している人は、裸眼と矯正視力を測定し、矯正視力のほうで判断します。視力低下は近視だけでなく、緑内障や加齢に伴う白内障などいろいろな原因で起こりますので、前の年にくらべて視力低下が著明な場合は眼科で精査を受けるべきでしょう。

健診での眼圧測定は、器械が眼に直接接することなく、空気がシュッと出て計測する空気眼圧計が使用されます。眼科で器械を直接眼に接触させて測定する圧平式眼圧計より精度は劣るのですが、スクリーニングの方法としては有用です。眼圧はmmHg(ミリメートル水銀柱)で表示され、

一般に10~20mmHgが正常範囲とされています。成人の平均値は17~18mmHg前後です。

眼圧が高い場合は緑内障の可能性があり精密検査が必要ですが、わが国では眼圧が正常でも緑内障の人(正常眼圧緑内障)が多くみられ、眼圧測定だけでは緑内障の存在を否定できません。実際、成人の開放性隅角緑内障の約90%は正常眼圧緑内障とされているからです。そこで緑内障の有無を明確にするために、眼底検査が必要となります。

健診の眼底検査は、一般に無散瞳で眼底カメラ撮影を行い、その記録写真から専門の眼科医が判定します。これにより視力に直接関係する黄斑部を含めた網膜全体、視神経乳頭、網膜血管の変化が把握できるのです。また高血圧の人に見られる高血圧性変化(H)や、動脈硬化性変化(S)はシャイエ分類などの診断が使われますし、糖尿病の人に見られる糖尿病性網膜症や眼底出血なども、眼底検査で観察されます。しかし高血圧や糖尿病のない一般人にとって、罹患率の高い正常眼圧緑内障のスクリーニングとして眼底検査は有用と考えられます。

2

緑内障が疑われる“視神経乳頭部陥凹拡大”

眼底検査で、
どのような異常が
あるといわれたの？



両側の“視神経乳頭陥凹拡大”
と書いてあるね。
眼科を受診して眼底検査や
視野検査を受けたほうが
いいようだよ



視神経乳頭陥凹拡大は緑内障の初期から見られ、視野検査で視野欠損が観察される前から認められる変化です。視神経乳頭は、網膜に映った光の信号を脳に伝える視神経のつなぎ目で、眼底の中心より少し鼻側に寄ったところにあります(図参照)。

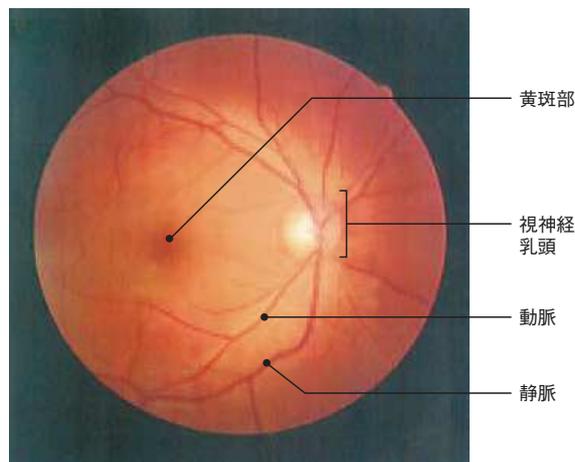
視神経乳頭の中心には「へこみ(陥凹)」があり、血管や視神経が入り出しています。この「へこみ」が「視神経乳頭の陥凹」と呼ばれているところです。人間ドックなどで指摘される「視神経乳頭の陥凹拡大」とはこの「へこみ」が大きいことを指しています。強度の近視や生まれつき乳頭部の陥凹が目立つ人がいますが、健診で視神経乳頭部陥凹拡大が指摘された場合は、眼科で眼底と眼圧の再検査を受けると

共に視野検査も受けることになります。

このとき異常がなくても、視野検査は定期的に(半年から1年に1回くらい)受けなければなりません。正常眼圧緑内障では、視野欠損よりも視神経乳頭陥凹拡大が先行して見られるため、定期的な検査が必要なのです。また視野検査で視野欠損が観察された場合は、正常眼圧でも点眼薬などにより眼圧をより低下させると、病気の進行を防ぐ効果があることがわかってきました。

緑内障は加齢黄斑変性症と共にわが国の失明原因の上位を占めていますが、多くの場合、相当進行するまで気づかれません。自覚症状もほとんどないため、気づいたときには失明寸前まで病期が進行していることが多いのです。

岐阜県多治見市で行われた疫学研究では、緑内障の有病率が40歳以上で人口の約5%(20人に1人)と報告されています。70歳以上では13%ですが、40歳代でも2%前後(50人に1人)、50歳代でも3%前後に見られました。この中で眼圧の高い人は15%前後で、そのうち約80%が正常眼圧緑内障でした。人間ドックにおける眼底検査は、早期に正常眼圧緑内障を診断する上で有用な検査と考えられます。



- 視神経乳頭**—— 全体的にはやや楕円、陥凹は横長楕円。色調は淡紅色で辺縁・境界は明瞭。
- 黄斑**—— 乳頭から耳側へ約15度、眼底のほぼ中央にある漏斗状の陥凹。
- 血管**—— 動脈: 鮮紅色、蛇行軽度。静脈: 暗赤色、蛇行強度。血管比は約2:3で静脈の方が太い。

図 正常眼底像

Mini Column

正常眼圧緑内障 (NTG: Normal-Tension Glaucoma)

緑内障は眼圧によって視神経が圧迫され、視野や視力に障害が出る病気です。目の中を循環している「房水」と呼ばれる液体がなんらかの原因で排出されにくい、あるいはまったく排出できなくなることで眼圧が上昇し、長い時間をかけて視神経に障害が起こります。その結果、視野欠損や視力障害が生じ、これを放置すると失明につながる場合もあります。

これまで緑内障というと、眼圧の高さが影響すると考えられていましたが、最近のわが国の疫学研究では、日本人の緑内障患者の8割以上が正常眼圧(10~20mmHg)緑内障であることがわかってきました。

正常眼圧緑内障は房水の排水口は開いているが、排水フィルターに当たる「線維柱帯」が目詰まりを起こし、じわじわ眼圧が上昇する開放隅角緑内障で、完全に塞がって眼圧が急上昇し、発症する閉塞隅角緑内障とは異なる機序で発症します。